

東京バッハ合唱団 月報

[第 622 号] 2014 年 4 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp <http://bachchor-tokyo.jp/>

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 622

April 2014

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

復活の春

大村 恵美子 (主宰者)

「イースターおめでとう！」

キリスト教圏の方ならば、今こうご挨拶しあうところでしょう。その他の人々も、長い雪と氷の冬が去って、土に植物や虫、獣の目ざめの萌しを感じられてくると、一斉にほころびる春を身に受けて、「春よ、復活よ、おめでとう！」という声が湧きあがります。

キリスト教の暦は、その自然界の循環の動きを丹念にとり入れて、教義の進展とうまく調和させて来ました。ローマ・カトリック教会のイースター（イエス・キリストの復活日）の定めでは、依拠する聖書の記事などに基いて、「春分後の満月から最初の日曜日」とされています。これは年によって相当の開きがあり、今年の場合は、「春分（3月21日）後の満月（4月15日）から最初の日曜日（4月20日）」にあたり、とてもおそい例になりますので、もう春もたけなわ、桜も関東などではとっくに散り果てる段階まで来てしまいました。私の家の黄色いシンビジウム蘭も、まるで意識がしつかりあるように、毎年きまってイースターの頃になると、蕾から満開になってゆくので、Oster-Lamm（過越しの小羊）をもじって「オステル・らん」とあだ名していたのですが、今年はさすがに待ち切れず、満開を過ぎてもうウバ蘭になりつつあるところです。

私たちの合唱団では、今年の冬は《ヨハネ受難曲》のシビアな心情にひたされて、みっちり練習を重ね、3月15日の第110回定期演奏会で仕上げを高く評価され、その後2回の「聖書朗読と合唱・オルガンによる」形式でくり返し演奏する幸せにあずかりました（3月29日・三崎町教会、4月13日・荻窪教会）。

よりごのみをする訳ではありませんが、すべてに整い、大規模な《マタイ受難曲》よりも、ひよっとするとバッハは《ヨハネ受難曲》のほうを、身近に愛しつづけて生き抜いたのではないか、という推測が、練習を重ねれば重ねるほど、確信に近く高められてきたのです。

実践的にも、支出の倍近くかかる《マタイ》より、《ヨハネ》のほうが、通常のカンタータの場合と同程度の出費で上演でき、その理由だけに限っても、各地で《ヨハネ》上演の回数が爆発的にふえて来ているのが、納得できる感じです。

私たちは今後、《ヨハネ受難曲》ならば何度でもくり

返したいという気持ちを残しながら、まだ手つかずに何十曲もあるカンタータの演奏にも戻らなければなりません。

たしかに4大作品連続演奏をなしとげた達成感と、そのために無理をつづけて来た疲労感とで、感謝にみちながらも「ここまで」と演奏活動から退いてゆく団員もふえつつあり、大きなイベントのあと、必然的に現れるこの現象は耐えねばならないのはいつものことですが、一方そのマイナスの惧れに対して、「いや、これからは多様な日常的活動だと思って、待ちかまえていました」という頼もしい声も、多くの団員からあげられてきて、ほんとうに私はありがたく思います。

私は、今後の日本の運命が、即、東京バッハ合唱団の運命に直結していることを、強く感じます。この国は、敗戦後、あいまいな道、不確かな道を彷徨せず、まっしぐらに不戦平和、経済成長へと足並みを揃えてきました。そして、世界から信用をとり戻しかかった頂点で、またもや明治から昭和の錯誤の政策へとめり込みそうになって来つつあります。

この合唱団は、始まりから今日に至るまで、一貫した姿勢で、信念をもって不安な経済状態と戦い、半世紀かけてやっと多くの信頼を勝ち得るようになりましたが、国の政策とちがって、儲けのためには、政経一致で軍備拡張も辞さずと民意を引っぱるような愚かさには陥らず、あくまでも正当な営業方針で、国の内外の人々に向かって、バッハ音楽の人間性を伝え広めようと努力しつづける他ありません。

生老病死に深く悩むのは、地の果ての未開国に限らない。最先進国と誇り、またそこまで達しようとして登ってきたわが国そのものも、足もとの深淵を、はつきりと悟らされたのが、2011. 3. 11の大惨事でした。

人類そのものの新しい出発を期して、自分たちで復活のために、しっかりと一歩を進み始める、そういう春なのです。

ご一緒にバッハを歌う仲間、われわれの演奏を楽しみにして下さる方々、新しい春に、新しい同志のみなさんの参加をお待ちしています。





■ 三崎町教会、3/29。写真提供：松尾茂春氏（団員）

2つの「合唱と聖書朗読によるバッハ《ヨハネ受難曲》」

[1] 三崎町教会 [四旬節第3週土曜日]

3月29日（土）、17:30 開演

今夕のご感想は？

（会場でのアンケートより）

- ・レントを覚えました。三崎町教会のはじめての試みですが、教会員でない方たちが大半で、教会を知っていただくチャンスでした。これからもレントとイースターを覚えたいと思います。東京バッハ合唱団の方々に感謝。
- ・荘厳ですばらしかった。
- ・受難節に教会で受難曲を味わうことができる幸を感じております。
- ・会堂のつくりのせい、迫力あるコーラスに感動。コラールによって、十字架を叫ぶ人々の叫びが音でよく分かった。
- ・パワー。
- ・かつて宗教音楽研究会でヨハネ伝受難曲も合唱いたしました。日本語でどのようにと興味がありました。ドイツ語での詞と同じ響きが素晴らしかったです。
- ・受難曲の演奏スタイルの原型に近い演奏という解説があり、納得できました。
- ・迫力があり、見事なものだと思いました。
- ・日本語の歌詞でしたので、分かりやすく、身近かで拝聴することが出来たので、ただ感動しておりました。ありがとうございました。

・とてもとてもよかったです。またの時、ぜひ聞かせていただきたいと思いました（三崎町教会で）。

・杉並公会堂の演奏（3/15）[第110回定期演奏会]のときにチラシで知りました。教会堂のなかで聴くヨハネ。ヨハネがとても身近かに感じました。合唱やオルガンの響きもよく、あ那时的感動をもう一度味わうことができ、思いがけず、またプレゼントを貰った気分です。朗読のみなさんも、おひとりおひとり、とてもよかったです。

・素晴らしい夕べをありがとうございました。日本語の受難曲はとても新鮮でした。

・聖書朗読により、受難曲の意味が分かりました。合唱団の男声B、T、すばらしかった。

<解説レジュメ>

○受難曲のあるべき「とき」と「ところ」

とき…受難節・受難週。ところ…教会。

バッハの《ヨハネ受難曲》は、ライプツィヒ・ニコライ教会、1724年4月7日、290年前の聖金曜日。キリストの事実から2014年後のレントに、今・ここで。

○聖書朗読と合唱による演奏スタイルについて

受難曲の祖形…福音書朗読（2世紀に記録あり）→朗唱→朗唱者の役割分担。朗唱音高の区別・旋律の発生（中世）→群衆合唱加わる→オラトリオ様式など。効果…「ヨハネによる福音書」の骨格が際立つ

○《ヨハネ受難曲》での役割

福音書記者…エヴァンゲリスト、受難曲の主演（内容の上ではイエス）

登場人物…イエスの台詞15回、ピラト15回、群衆15回(wohinを加えて)（《マタイ》では、イエス23回、ユダ5回、ペテロ5回、群衆8回）

合唱の分類…3種（大合唱、群衆合唱、コラル）、群衆合唱（turba 騒動・混乱・群衆）

○日本語演奏について

本日のテキストは、2種類の翻訳（新共同訳、大村訳）。

テキストの時間層…イエスの出来事（アラム語・ヘブル語）→記者ヨハネ（ギリシャ語）→ラテン語の中世→ルター訳（ドイツ語）→作曲家バッハの母語→日本語演奏。

なぜ、日本語か？ …こころの奥深くで共感したい、バッハの祖国の人びとと同じ深さで。

○本日の役割分担

（荻窪教会の場合）。

福音書記者：星野さん、イエス：小海牧師、総督ピラト：林さん、弟子ペトロ：伊藤さん、しもべ/女中：山村さん

オルガン：金澤亜希子さん、指揮/訳詞：大村恵美子さん、群衆/合唱：東京バッハ合唱団。

ここまでに紹介されなかった方…客席のみなさん。ここが「コラル」の本来あるべき「ところ」、No. 40のコラルをみんなで歌いました。（休憩なしで1時間半）



■会衆と一緒にコラルを歌う。荻窪教会、4/13。写真提供：市川義和氏（後援会員）



■荻窪教会員による聖書朗読。同上。

[2] 荻窪教会 [棕櫚の日曜日]

4月13日（日）、17:00開演

合唱と聖書朗読によるバッハ「ヨハネ受難曲」に参加して

星野 香

4/13、東京バッハ合唱団特別演奏会に聖書朗読役として参加させていただきました。

指揮をされる大村先生の気迫を身近に感じ、また合唱団の方々の素晴らしい歌声に圧倒されながらも、こ

のような体験ができたことに感謝しております。

日本語演奏だからこそ、伝わってくる内容に心打たれ、まるで「受難週」の場面を目の前で体験しているかのようなのでした。

是非これからも多くの場所と人々に、素晴らしい演奏を伝え続けてください。魂の感動をありがとうございました。

（日本キリスト教団荻窪教会会員、当日の福音書朗読者）

短・信・紹・介

《ヨハネ受難曲》を聴いて

安増 幸子

今回のコンサート [3/15、第110回定期] は、レントの期間だったせいか、感動一入（ひとしお）でした。「ヨハネによる福音書」の言葉が出来事になって、目

の前に繰り返りひろげられた思いでした。ルターの母国語による聖書の朗読が宣教に大きな力を発揮したように、さらに音楽をとおして魂にうったえることをなされた大村先生のお働きに感謝しました。

福音史家の日本語の歯切れ良さが、文字にたよらずに聴く者の想像力をかきたててくれました。「実に信仰は聞くことにより、しかもキリストの言葉を聞くことによって始まる」というパウロの言葉が真実であることを、改めて実感させられました。

人生の晩年に、不思議なできごとによって定年を待たずに神学校に入学・卒業し、約20年間牧師として立てられた私は、80歳で引退してもなお、牧師不足の現状に、ときどき講壇に立たされていますが、そのたびに、与えられた聖書の言葉を深める想像力の大切さを思います。今は、説教を聞くことが多くなり、語る牧師が感動なくして御言葉は伝わらない、としみじみ思わされています。

若くして洗礼を受ける教会員を誘いながら、先生の演奏会に参加してきました。ありがとうございました。

多くの方々に演奏が届きますように

浜島 和子

東京は桜の春を迎えたところですね。札幌は山はまだ白い冬景色ながら、街中は雪解けで、あちこち水浸し、桜は五月十日前後になります。

先日は素晴らしい演奏を聞かせていただき、ありがとうございました。特に合唱がしっかり聞きとれて、受難の物語に引き込まれ、心ゆさぶられる一時でした。これも日本語訳だったからこそと納得しました。荻窪教会で、さらに東北被災地で、多くの方々に演奏が届きますよう祈っています。[3/31 消印]

来年の夏、聴衆として南相馬に……

菅原 文子 (後援会員、元S団員)

大村先生、演奏会の成功、おめでとうございます。あわせて Happy Birthday!! 実は当日は行くことが出来ませんでした残念でした(招待券はムダにはしません)。

月報掲載のアンケートで、合唱のコラール、弱音がきれいで揃っていましたが、とありましたが、最高ですね。今年のクリスマス・オラトリオの時に、出演者が一体となった見事な演奏で、バッハの音楽を心地よく聴かせていただき、その後、先生が月報で、ヨハネに向けて団員が意欲的に取り組まれている、とありましたので、皆さんよくやっつけらっしゃると感心していました。これも50年、何があっても続けていらっしゃる賜物と思います。

私は来年の夏、聴衆として南相馬に行けることを願っています。

バッハ・カンタータと教会暦の聖句一覧 ⑪

BWV 109 《われは信ず わが主よ 助けたまえ》(1723 初演) Ich glaube, lieber Herr, hilf meinem Unglauben! 【教会暦】 三位一体節後第21日曜日(他に=BWV 38, 98, 188) 【書簡】 エフェソ6:10-17。BWV 38, 98に同じ。 【福音書】 ヨハネ4:47-54。(同上)
BWV 110 《喜び 笑い あふれ》(1725 初演) Unser Mund sei voll Lachens 【教会暦】 降誕節第1祝日(=BWV 63, 91, 191, 248/ I) 【(書簡)】 イザヤ9:2-7。BWV 63, 91に同じ。 【福音書】 ルカ2:1-14。(同上)
BWV 111 《み心は つねに成し遂げらる》(1725 初演) Was mein Gott will, das g'scheh allzeit 【教会暦】 顕現節後第3日曜日(=BWV 72, 73, 156) 【書簡】 ローマ12:17-21。BWV 72, 73に同じ。 【福音書】 マタイ8:1-13。(同上)
BWV 112 《主は わが頼める まことの牧人》(1731 初演) Der Herr ist mein getreuer Hirt 【教会暦】 復活節後第2日曜日(=BWV 85, 104) 【書簡】 1ペトロ2:21-25。BWV 85, 104に同じ。 【福音書】 ヨハネ10:12-16。(同上)
BWV 113 《イエス 高き室》(1724 初演) Herr Jesu Christ, du höchstes Gut 【教会暦】 三位一体節後第11日曜日(=BWV 179, 199) 【書簡】 1コリント15:1-10。キリストは3日目に復活して弟子たちに現われる。[福音書]ルカ18:9-14。高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。
BWV 114 《信仰の友 安かれ》(1724 初演) Ach, lieben Christen, seid getrost 【教会暦】 三位一体節後第17日曜日(=BWV 47, 148) 【書簡】 エフェソ4:1-6。BWV 47に同じ。 【福音書】 ルカ14:1-11。(同上)
BWV 115 《備えよ心 目覚め 祈れ》(1724 初演) Mache dich, mein Geist, bereit 【教会暦】 三位一体節後第22日曜日(=BWV 55, 89) 【書簡】 フィリピ1:3-11。BWV 55, 89に同じ。 【福音書】 マタイ18:23-35。(同上)
BWV 116 《平和の君 イエス》(1724 初演) Du Friedefürst, Herr Jesu Christ 【教会暦】 三位一体節後第25日曜日(=BWV 90) 【書簡】 1テサロニケ4:13-18。BWV 90に同じ。 【福音書】 マタイ24:15-28。(同上)
BWV 117 《み栄えあれかし 恵みのみ父に》(1728-31 成立) Sei Lob und Ehr dem höchsten Gut 【教会暦】 (無指定)
BWV 118 [モテット]《おおイエス 命の光》(1736/37 成立) O Jesu Christ, meins Lebens Licht 【用途】 おそらく葬儀
BWV 119 《頌めよ イエルサレム 主を》(1723 初演) Preise, Jerusalem, den Herrn 【用途】 市参事会員交替式
BWV 120 《主を頌めまつる われら静けきシオンにて》 Gott, man lobet dich in der Stille zu Zion (1728-29 成立) 【用途】 市参事会員交替式
BWV 121 《キリストを 頌め讃えよ》(1724 初演) Christum wir sollen loben schon 【教会暦】 降誕節第2祝日(=BWV 40, 248/ II) 【書簡】 テトス3:4-7。BWV 40に同じ。 【福音書】 ルカ2:15-20。(同上)
BWV 122 《新たのみどり児 小さきわがイエスは》(1724 初演) Das neugeborne Kindelein 【教会暦】 降誕節後第1日曜日(=BWV 28, 152) 【書簡】 ガラテヤ4:1-7。BWV 28に同じ。 【福音書】 ルカ2:33-40。(同上)